



BETHEL通信

2022年4月号（第225号）

松山ベテル病院 松山市祝谷6丁目1229番地 Tel089-925-5000

ホームページ <https://www.bethel.or.jp/>

新年度を迎えて

2022年4月から、坪田先生より医局長を引き継ぎました奥村淳子と申します。

一年間、どうぞ宜しくお願いいたします。

私は、2019年7月に聖愛会に入職し、ようやくベテル病院での仕事に慣れてきたと感じているところです。この2年9か月、様々な患者さまの療養される姿、人生の物語、それを支えるご家族のありようをみさせていただきました。

松山ベテル病院は、「心身共に病んでいる患者さまを全人的にケアするホスピス精神」を基本理念として歩んでいます。ベテル病院の各職場では、この基本理念を唱和し、日々、原点に立ち返り、患者さま・ご家族を含めて、多職種がチームとなり、話し合いを重ね、医療・ケアにあたっています。

今年2月に開催されました「日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会プレ大会」で講演された薬師寺執事長の大谷徹英（おおたにてつじょう）さんは、『看護の看は、手「触れること」と目「笑顔」。人は、触れられる、笑顔を向けられると嬉しい。そこから、共有「ともに有る」、共栄「ともに栄える」、共生「ともに生きる」が生まれる。寄り添いについて。人間の一番美しい姿が合掌の姿、右の手と左の手をまっすぐに胸の前で合わせた姿に喩えて、医療や介護をする側、受ける側が、お互いのできることをできる範囲で精一杯して、合わせた時が、一番の寄り添いになる。すべての人間関係も同じこと。』と述べられました。ともすれば、「こうした方がいい。」といいがちなところが医療者にはあります。あてがい医療、あてがい看（介）護にならぬよう、患者さま本人を主語として、患者さま・ご家族の、苦しみが何か、支えが何か、何があれば穏やかになれるか、その方が人生で大切にされていることなどを伺いながら、医療や療養の選択・それを実行するお手伝いをさせていただきたいと思っています。

今後とも、ご指導を宜しくお願いいたします。





当院で見つけた春



病院内では1年を通し室内温度は、大きく変わりません。そのため、体は暑さ、寒さの変化の対応ができにくくなります。本来、暑さ寒さに敏感な私たちも季節の移ろいに伴い冬の厚手のコートから春用の薄い羽織るものになりました。日に日に日が長くなり、また日差しも温かさを増しています。この原稿を書いている3月10日時点では桜はつぼみですが、松山市の開花予想は3月24日とのことです。ペテル通信が発行されている頃には、当院の玄関前にある桜も沢山のつぼみをつけ開花していることでしょう。ホスピス病棟の1室だけ窓全体で桜の絵を眺めているようなところがあり、そこが、私の秘密の桜です。患者さんの視線からしか見えないもので、かがまないと見ることはできません。桜に日の光が反射し病室が桜色に染まっています。玄関の夜桜も風情があります。今年は、患者さんも桜の木の下で、コロナを気にしないで花見ができたらいいなと思います。

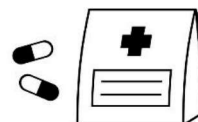
桜の代表であるソメイヨシノは、江戸時代中期に、江戸の染井村（現・東京都豊島区駒込）の植木職人らが売り出した「吉野桜」が始まりだと言われています。ソメイヨシノは、花が先に咲きます。葉よりも先に花が咲くため、見栄えが良い品種として人気を集め、どんどん数が増えていきました。ちなみに、ソメイヨシノの花が葉っぱよりも先に咲く理由は、前の年からエネルギーを十分にためていて、花を咲かせるエネルギーを蓄えているから。もう一つは、先に花を咲かせて目立たせることで、昆虫を見つけやすくなり受粉しやすくなるから。また、葉がないことで風通しがよく風により受粉しやすくなるからだと言われています。

病院の裏山の景色も一気に春の装いに変わります。若葉が一気に山全体を覆い、日光に反射して輝きを増しています。鳥のさえずりが賑やかになります。最初うまく鳴くことができなかった鶯も、直ぐになめらかなさえずりに成長しています。まるで裏山から強い生命力が溢れ出してくるようです。風がさわやかになり心地良くなり、冬の重い空気が洗い流されています。新人スタッフを病院全体で歓迎し、新たな一歩を歩みだす季節になりました。この2年覆われたコロナによる重苦しい空気を一掃させ、新たな気持ちで過ごしたいものです。





薬の飲み合わせ



先月に引き続いて、お薬の飲み合わせについての話です。

現在日本人で 50 歳以上の人のうち、※約4割の人が高血圧症にかかり何らかの薬物治療を受けています。(※2018 年度 国民健康・栄養調査より) その治療で用いられる降圧剤のうち、カルシウム拮抗薬(アムロジピン、ニフェジピン、シルニジピン等)を服用中の方は、グレープフルーツジュースを飲むと薬効に影響が出るため、注意する必要があります。

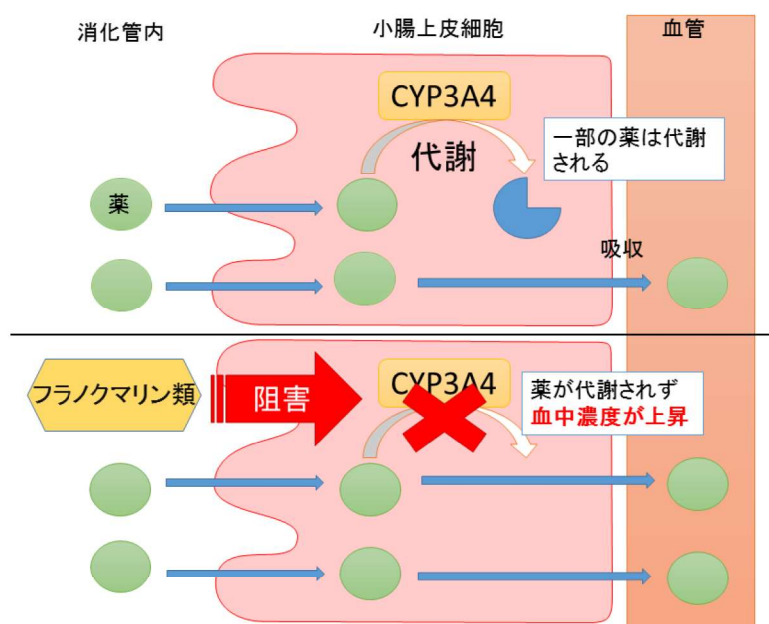
ではグレープフルーツジュースはどのように降圧剤の薬効に関わるのでしょうか？その答えとして、グレープフルーツジュースは先月掲載したキレート化のように直接薬に作用するのではなく、薬の代謝経路へ作用することが分かっています。

私たちの飲んだ薬が体内に入り出ていく様子は「吸収」「分布」「代謝」「排泄」の 4 つの過程で表されます。①消化管を通った薬が小腸上皮細胞に取り込まれ、血管の中に入る「吸収」、②血液に運ばれて全身へ巡る「分布」、③代謝酵素の力で構造や性質が変わる「代謝」、④便や尿中に分泌されて体外へ出る「排泄」です。

③の代謝は主に肝臓で行われますが、吸収の場である小腸上皮にも代謝酵素が存在し、代謝を行うことで血中へ移行する薬の量を減少させています。

グレープフルーツジュースに含まれる『フラノクマリン類』はこの小腸上皮に存在する『CYP3A4』という代謝酵素に不可逆的に結合し、その活性を阻害します。これにより血中へ移行する薬の濃度が高まり、降圧作用が働きすぎたり副作用が強くなったりする可能性があるため、カルシウム拮抗薬を服用中の方はグレープフルーツジュースの摂取を避ける必要があります。

このフラノクマリン類は果実や果汁よりも果皮に多く含まれるため、皮ごと加工されるグレープフルーツジュースやマーマレードは特に気をつけなければいけません。またグレープフルーツと近縁種のブンタン、ダイダイなどもフラノクマリン類を多く含みます。ところが同じ柑橘類であっても温州みかん、デコポン類は含有量が少ないとされるため、カルシウム拮抗薬を服用中の方が食べても問題ないとされていますが、食べ過ぎない範囲で摂取するのが肝心です。



(参考: 国立研究開発法人 医療基盤・健康・栄養研究所)

外来診療日のお知らせ

◎豊田 泰孝 医師（精神科・心療内科）

4月6日（水）、4月20日（水）

【4月より神経内科は多田聡医師と吉田暉医師の2名で週ごとに交代制で診療いたします】

◎多田 聡 医師（神経内科）

4月14日（木）、4月28日（木）

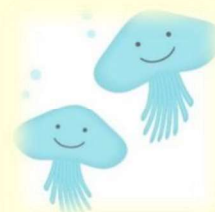
◎吉田 暉 医師（神経内科）

4月7日（木）、4月21日（木）

外来の担当医が一部、下記のように変更になりました。

【※4月より加藤喜久美医師の内科診察が月曜日に再開いたします】

【※4月より樋野正治医師の内科診察が始まります】



	月	火	水	木	金
内 科	尾崎	大西	三好浩輔	三好賢一	大西
	加藤	佐々木	奥村	尾崎	越智
			樋野		
神経内科				多田(隔週)	
				吉田(隔週)	
痛み外来	坪田				
整形外科	益田		益田		
リハビリテーション科				山本進	
外 科				山本祐司	中橋
脳神経外科		森			
精神科 心療内科			豊田(隔週)		
ホスピス外来	予約制	予約制	予約制	予約制	予約制

新

人

紹

介



かわばた れいな
河端 麗那



配属部署：3階東
職 種：看護師
抱 負：早く業務
などに慣れたいです。

のむら ひろし
野村 寛



配属部署：経営企画課
職 種：事務
抱 負：出来る業務を
増やせる様に努力しま
すのでよろしくお願い
いたします。

菜の花や
テントオ虫の赤や黒
(井 笹)

竹の子を
ほりしあの頃足達者
(尾崎 長子)

早朝の
熱きコーヒー春隣
(河田 和子)

春のせて
流れる川面キラキラと
(四季)

遍路さん
電車で横にすわる縁
(藤本 加奈子)

ベテル旬会

投句箱は受付・各病棟に設置しています。皆様のご投句をお待ちしております。

『ベテル通信』についてのご意見やご要望はご意見箱へお願いします。

掲載中の写真についてはご本人様、ご家族様の許可を得ています。

発行日 2022年3月23日